

「あなたは神の子です」

詩篇  
マタイによる福音書

第29篇 1節～3節  
第14章 22節～36節

説教 岡村 恒 牧師

この日、主イエスはガリラヤ湖の水の上を歩いてくださいました。主イエスがどういうお方で、私たちに何をしてくださるお方かを、私たちが知り、信じて生きるようになるためです。

大勢の人が主イエスのもとに集まり、そして飢えていました。主イエスは少しの食糧を持って群衆を満腹にさせます。そのすぐ後、主イエスは群衆を帰らせ、その最中、強いて弟子たちを船に乗りこませ、ガリラヤ湖の向こう岸に向かうようにと指示されました。1人、山に上って夜中まで祈っておられました。弟子たちは本来なら、あの出来事について主イエスと話をし、人々の注目を浴びていたかたに違いないと思います。主イエスはそれを、お許しになりません。主イエスは弟子たちの信仰がなくならないようにと祈られました。そのことを直接弟子に伝えてもおられます。

船は逆風に翻弄されます。この弟子たちには、ガリラヤ湖の漁師だった者が何人もいました。プロの漁師であった者が一切の可能性や自信を失いません。風が激しく吹き続け、夜明け前の最も闇が深くなる時に、船の傍らに主イエスが近づいてこられます。弟子たちは、その姿を見て、幽霊だと思い怯えました。「しかし、イエスはすぐに彼らに声をかけて、『しっかりするのだ、わたしである。恐れることはない』と言われた。」(マタイによる福音書14章27節)弟子たちはこの「恐れることはない」という言葉をこれからも繰り返し聴くことになります。

「ペテロが答えて言った、『主よ、あなたでしたか。では、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとに行かせてください。』」(28節)彼は主に招かれて、まだ波立つ水の上に降りていきます。驚くべき姿です。今日、主イエスは私たちにもこのように求めることを願っておられるのかも知れません。自分の力では、どう考えても踏み出すことはできない水の上に、あなたが命じて下されば私は水の上を歩いてあなたの身元に行ける。そう信じて良い。主イエスはそう言われているのではないのでしょうか。

洗礼を受けるというのは、主よ命じてください、そう言って船から足を踏み出すような出来事です。聖書の語る主の復活が真実であることを信じて、やがて主イエスが再び来てくださり、新しい天と新しい地を成就し、そこに迎えてくださることを信じて、全身全霊を聖書の言葉に

かけることです。主イエスが招いてくださって初めて、私たちに信仰の決断が与えられ、船から1歩踏み出すことができるようになります。

しかしペテロは失敗します。主イエスから目を離してしまい、溺れそうになるのです。私たちも同じです。洗礼を受け、主イエスだけを見つめて歩き始めたはずなのに、風を見て恐ろしくなり溺れかけます。「彼は叫んで、『主よ、お助けください』と言った。」(30節)主は、叫び声を聞いてすぐに手を伸ばして引き上げられます。私たちもたとえ失敗しても、「主よ、お助けください」と叫ぶことができます。主はすぐに手を差し出し、引き上げてくださいます。

主イエスがペテロと一緒に乗り込むと、風はやみ、波は静かになりました。船はゲネサレに到着します。大勢の人が集まり、病人を連れて来て、主イエスを通して神の国の力を味わう出来事が起こります。弟子たちは、誰よりも主イエスのことを深く知るようになりました。主イエスは、弟子たちを放置せず、近づき、弟子たちの思いを聞き取って、招いて、溺れかけたときには手を伸ばして引き上げてくださったのです。この一夜の体験は弟子たちの魂に深く刻まれ、繰り返し思い出されたに違いありません。

弟子たちの口から、「ほんとうに、あなたは神の子です」(33節)という告白が溢れ出てきました。まだ本当の意味では、この意味を理解していない弟子たちでした。やがて、主イエスの霊が注がれて初めて、主イエスがどういうお方かを知り、信じて生きるようになります。私たちも同じです。聖霊を注がれて初めて、主イエスを知り、信じるのです。日常生活の只中で何事もなく過ぎていく時にも、実は私たちは嵐の海の中で船に乗っているようなものです。しかし、生まれることと死ぬこと、その間にあるすべてのことは神の手の内にあります。

主イエスは片時も私たちから目を離すことなく、招き、答えさせ、導き出し、引き上げ、歩ませてくださいます。だから、喜んで力強く歩んで行きましょう。主イエスを信じる者は1人も滅びることがなく、永遠の命が与えられ、裁かれることはありません。死から命に移されているからです。主イエスは私たち全ての者の救い主です。

(記 説教要約奉仕者)